

日時 令和6年

11月30日(土)

13:00 ~ 16:30 (開場予定 12:30 ~)

会場 米子コンベンションセンター
小ホール

現代によみがえる 上淀廃寺の魅力

参加費
無料
※要事前申込

定員
300名

伽藍想像図

内容

総司会 佐藤宏之氏

(東京大学大学院人文社会系研究科・特任研究員、東京大学名誉教授)

● 主催者挨拶 納富信留氏 (東京大学大学院人文社会系研究科長)

● 趣旨説明 佐藤宏之氏

● 基調講演 「白鳳・天平の華・上淀廃寺を掘る —上淀廃寺の発掘調査について」
中原 斉氏 (米子市経済部文化観光局文化振興課 専門官)

● 基調講演 「古代寺院のなかの絵画 —上淀廃寺壁画を考える前提として」
増記隆介氏 (東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 准教授)

● 基調講演 「僧侶の行っていた実践 —金堂壁画より推測されるもの」
蓑輪顕量氏 (東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 教授)

● シンポジウム

コーディネーター: 佐藤宏之氏、松田 陽氏

パネリスト: 中原 斉氏、増記隆介氏、蓑輪顕量氏

コメンテーター: 納富信留氏

申込み方法

※受付開始日 令和6年10月13日(日)

電話・FAX・メール等で

- ① 代表者お名前 (ふりがな)
- ② 代表者ご連絡先電話番号
- ③ 参加希望人数 (代表者含む) を添えて
米子市文化ホールにお申込みください。

- 電話 0859-35-4171
- FAX 0859-35-4175
- Eメール yonagobh@chukai.ne.jp
- 申込フォーム QRコード



< 開館時間 > 9:00 ~ 22:00

< 休館日 > 毎週火曜日

※ お申込み締切 令和6年11月23日(土・祝)

東大人文・淀江プロジェクトとは

1901年日本の考古学・人類学の草分けと評される坪井正五郎氏(東京帝国大学教授)は淀江町を訪ね、本州唯一の石馬に注目しました。また、長者ヶ平古墳から発見された金銅製冠は、今も東京大学に保管されています。そのような縁もあって、東京大学文学部に、令和4年から当面5年間の予定で立ち上がった淀江研究のプロジェクトです。

令和4年7月にスタートアップ・シンポジウム、令和4年11月、令和5年1月、令和6年10月に市民講座、令和5年3月に特別講座、令和6年1月に第2回シンポジウムを開催しました。

主催 東大人文・淀江プロジェクト

[東大問い合わせ先] プロジェクト室(佐藤) ☎03-5841-4046 hsato@u-tokyo.ac.jp
事務担当(瀧口) ☎03-5841-4028

共催 米子市、一般財団法人 米子市文化財団 [米子市文化ホール]

後援 鳥取県、NPO 法人 むきばんだ応援団、一般社団法人淀江ロマン遺跡回廊

現代によみがえる 上淀廃寺の魅力

日時

令和6年

11月30日(土)

13:00 ~ 16:30 (開場 予定 12:30 ~)

定員
300名

会場

米子コンベンションセンター 小ホール

参加費

無料 *要事前申込



上淀廃寺復元壁画

講師プロフィール



中原 斉氏 米子市経済部文化観光局文化振興課専門官

1959年鳥取県米子市生まれ。

1992～1993年に上淀廃寺の発掘調査を担当。鳥取県立むきばんだ史跡公園所長、鳥取県埋蔵文化財センター所長、鳥取県地域づくり推進部文化財局長を務め、史跡をはじめとする文化財の保存と活用に取り組む。2020年4月より米子市経済部文化観光局文化振興課専門官。鳥取県ヘリテージマネージャー、史跡大御堂廃寺整備検討委員、鳥取大学地域学部非常勤講師など。主な著書は「よみがえる金堂壁画 上淀廃寺」(新泉社、2017年)、「白鳳・天平の華 一因幡・伯耆の古代寺院」(鳥取県、2019年)ほか多数。



増記 隆介氏 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 准教授(美術史学研究室)

1974年茨城県生まれ。

財団法人大和文華館学芸部部員、文化庁文化財部美術学芸課文部科学技官、同文化財調査官(絵画部門・古墳壁画室)、神戸大学大学院人文学研究科准教授を経て、2021年より現職。

この間、高松塚古墳壁画、キトラ古墳壁画、法隆寺金堂壁画等の保存に関するプロジェクト、絵画の国宝・重要文化財指定保護業務に携わる。著書に『日本の美術 孔雀明王』(至文堂、2008年)、『院政期仏画と唐宋絵画』(中央公論美術出版、2015年)、『天皇の美術史1 古代国家と仏教美術』(共著、吉川弘文館、2018年)等がある。



蓑輪 顕量氏 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 教授(インド哲学仏教学研究室)

1960年千葉県生まれ。(財)東方研究会研究員、愛知学院大学文学部助教授、教授を経て、平成22(2010)年4月より現職。

専門は日本の仏教、仏教思想史。

昨今はインドから中国、日本への瞑想の展開を考察。内閣府のムーンショット9の研究に脳科学分野の研究者とともに従事。

主著は『中世初期南都戒律復興の研究』(法蔵館、平成11(1999)年)、『日本仏教の教理形成—法会における唱導と論議の研究』(大蔵出版、平成21(2009)年)。一般書として『日本の宗教』(訳著、春秋社、平成19(2007)年)、『仏教瞑想論』(春秋社、平成20(2008)年)、『日本仏教史』(春秋社、平成27(2015)年)、編著に『事典 日本の仏教』(吉川弘文館、平成26(2014)年)、『仏典とマインドフルネス』(臨川書店、令和3(2021)年)など。

コーディネータープロフィール



佐藤 宏之氏 東京大学大学院人文社会系研究科 特任研究員 名誉教授

1956年仙台生まれ。専門は先史考古学と民族考古学。

特に日本および東アジア先史時代の技術・行動論及び現生狩猟採集民の居住形態研究。

また大学や行政の地域・社会連携活動に長年携わってきた。アジア旧石器協会会長、日本旧石器学会前会長、日本考古学協会前副会長。文化庁文化審議会第三専門調査会委員。

北海道北見市常呂遺跡史跡整備委員会・山形県高島町日向洞窟遺跡調査検討委員会・長野県佐久市香坂山遺跡調査指導委員会・千葉県酒々井町墨古沢遺跡整備活用委員会等の各委員長。



松田 陽氏 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 准教授(文化資源学研究室)

1975年兵庫県生まれ。

ユネスコ本部文化遺産部コンサルタント、英国イーストアングリア大学世界美術・博物館学科准教授を経て、2015年より現職。文化庁文化審議会正委員。専門は文化遺産研究、パブリックアーケオロジー。

著書に『入門パブリック・アーケオロジー』(共著、同成社、2012年)、『実験パブリックアーケオロジー』(同成社、2014年)、*Reconsidering Cultural Heritage in East Asia* (編共著、Ubiquity Press、2016年)等がある。